

# 心と心がつながるボランティア

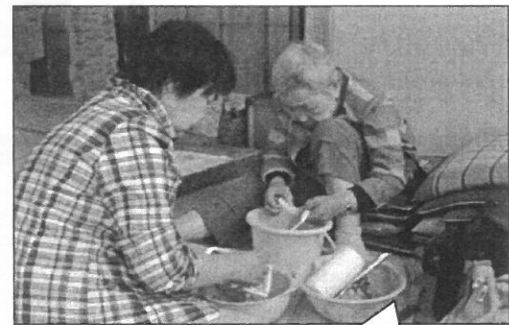
現地の方々から感謝の声

震災が発生し、至る所ががれきの山。道路も通れず、買い物にも行けない状況の中で、私たちの強い願いは、がれきの撤去でした。当時、福井から来ていたボランティアチームにその思いを伝え、ひと月もたたないうちに、重機をもって辻さんたちがやってきました。私たちの願いを聞いて、すぐに動いてくれたことにとっても感動しました。そして、今でもこうして支援を継続してくれて、すごいことだと思っています。

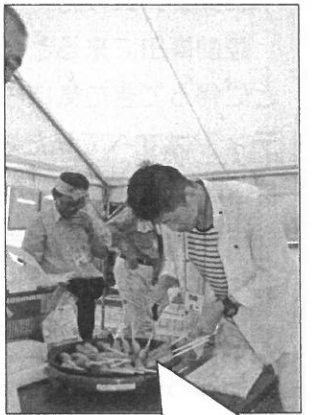
このように、来ていただくたびに私たちが思うのは、逆の立場になったとき、私たちはどれだけのことができるのだろうかということです。本当に頭が下がる思いです。（※現地の方々の話を聞いて、まとめました）



夜の交流会では、小泉・地竹沢地区町内会皆様から、地元銘菓「かもめの玉子」が贈られました。ありがたく頂戴する辻猛委員長



今回の参加者で、最高齢の前田さん（右）。そうめん用のしょうがをすりおろしていただきました。



最年少参加の市橋さん。フランクフルト担当で活躍しました。

ありがとうございます  
今回3日間に渡って、川端敏男さん、田中清明さん、辻猛さん、松田隆二さん、山田信二さん、山田満さんに長距離・長時間、マイクロス2台、ダンブカー1台を現地まで安全に運転していただきました。

## ダンブ労働者の半数が60代以上、人材不足解消に労働条件改善が急務

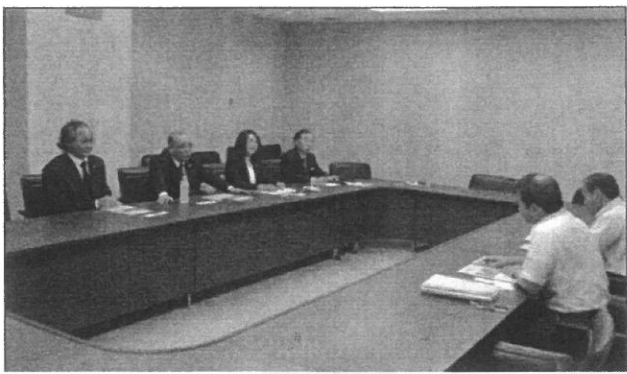
7月8〜10日ダンブキャラバン

7月8〜10日、第22回全国ダンブキャラバンの一環で、北陸ダンブ支部も新潟、長野、福井、名古屋で国交省や自治体を回るキャラバンに行ってきました。

8日は、新潟で北陸信越運輸局と北陸地方整備局（書記局の久保と西崎が参加）、名古屋では中部地方整備局（山田信二岐阜分会委員長、田中清明岐阜分会書記長、書記局の立野が参加）で要請行動を行いました。

9日は、新潟から長野に移動し、長野国道事務所、長野県建設部（久保、西崎が参加）を訪問しました。

10日は、福井に行き、福井河川国道



福井河川国道事務所での要請行動。川上卓也副所長（道路）、五十川政志副所長（治水）が対応しました。奥左から、西弘明嶺北分会委員長、辻猛委員長、久保浩美書記長、立野正俊就労対策部長

## 第2回交通安全講習会を開催 岐阜分会

組合員ら18人が参加し成功

岐阜分会は7月5日、関市文化会館で「第2回交通安全講習会」を開き、組合員や就労関係業者など18人が参加しました。講師には岐阜県警察署から宮田博文交通課長が来ていただき、約30分のDVD上映の後、最近の交通事故の特徴や傾向をお話いただきました。



50歳以上のベテラン職業ドライバーは、時間に遅れそうでも急がない一方で、静止・動体視力が低下するなど、身体・認知機能が低下している。生活習慣病も疲労しやすくなり、脳の活動レベルが低下すると指摘していました。

また、横断歩道は、歩行者の飛び出しでも過失を問われるので、絶対に事故を起こさないように気をつけてほしいと話されました。

講習会後は、料理屋「丸しん」で組合員集会を開き、活動報告をしたあと、懇親しました。

### お知らせ

8月12〜16日、組合事務所はお盆休みになります。緊急の場合は、書記局専従の携帯080-63550-9037（久保）にご連絡ください。

### 由ナンバー

安全保障関連法案が7月16日、衆院本会議で強行採決されました。議論すればするほど、法案への疑問が膨らむから、さっさと採決しちゃおうとするのは、いかなものなんでしょうね？▼ところで、国会周辺は法案に反対する人が集まり、反対の声が大きく盛り上がっています。でも、いつものように職場に出掛け、仕事をしていると、国会での出来事が自分とは全く関係のない別世界のようにも見えてきます。公共工事の仕事が欲しい、確定申告や労災などがあるからダンブの組合に入ったのに、なぜ、労働組合が政治の問題に取り組むのか？多くの組合員さんが疑問に思っているかもしれません▼戦前、戦中ってなんだか息苦しく、くらいイメージがありますけど、たぶん、今とそんなに変わらない感覚で仕事をし、生活をしてたんじゃないかなあと思います。当時の憲法が天皇主権となっていて、天皇制反対とか戦争反対と言っていた共産党員などは大変だったかもしれませんが、その他大勢の市民にとってはあんまり関係ない世界の話だったのではないのでしょうか▼戦前、まだ本土が空襲とかなかったときは、ちょっと上流・中流の奥さんが、デパートに行ってお中元やお歳暮を選ぶように、兵隊さんに送る慰問袋を「これをお願いね」とか言って、戦地に送っていたそうですよ。中国や南方に日本軍が進出して侵略戦争をしているうちは、たぶん、自分たちの生活とは関係ない、つまり、他人事だったんでしょうね。それがいつの間にか、自分たちの町も空襲にあうようになり、最後は多くの家族や財産を失ってしまったというのが実態だったような気がします▼ここでポイントなのは、他人事とさきこそ、当事者意識をもって、食い止めておかないと、我が事になってしまっただときは、手遅れということではないでしょうか。できることならば、自分たちが辛い目にあう前に、危険な芽は摘んでおく方がいいと思うのです。

### 訃報

富山県氷見市 干場 茂則さん（69歳）平成27年7月1日、病氣のため逝去ご冥福をお祈り申し上げます。